第三部　今後に向けて

第三部では登壇者全員から、慰安婦問題の今後に向けての課題と方針について簡潔なスピーチがあった。その要旨は次の通りである。

福井義高氏：世界的視野で見ると、歴史の歪曲による分断・対立は日韓の間で始まり、今や世界中に広がっている。ラムダイヤー教授が指摘した 1619 プロジェクトもまさにその流れにある。日韓が困難を克服して歴史歪曲問題を解決できれば、世界に先んじて厄介な歴史問題を克服する好例となるだろう。

松木國俊：　韓国では 20 万人もの女性が強制連行されて性奴隷にされたというが、それに抵抗した事件が一件も記録にない。それこそが強制連行がなかった一番の証拠である。それでもあったというのなら、自分たちの祖先を「腑抜け」と冒涜することになる。慰安婦問題は反日親北朝鮮勢力がでっち上げた「嘘」であり「詐欺」である。中国や北朝鮮の脅威に対抗するために日米韓の連携を強化すべきであり、そのためには慰安婦問題の「嘘」を早急に打破し、日韓間に真の信頼関係を構築しなければならない。

ジェイソンモーガン氏：

これから先、歴史認識問題で世界中が不安定になる可能性があるが、大事なことは事実であり、本当のことを恐れずに言うことが、慰安婦問題をはじめあらゆる過去がらみの問題を解決する上で最も重要である。

李宇衍氏：　私が慰安婦像撤去、挺対協解体を訴え始めたのは 2019 年 11 月だったが、このようなシンポジウムを開催出来る日がくるとは思わなかった。韓国全体が変わる日もきっと来ると信じている。そのためにまず韓国の世論を変える必要があり、今後韓国内で支持勢力を糾合して勢力を拡大すべく努力すると共に、日米韓の連携を一層強めて行きたい。

金柄憲氏：　今や正義連は消えて行くロウソクの炎と同じである。これからも教科書に書かれた嘘をやめさせるために徹底的に戦う。日本でも「嘘を教えては子供が可哀そうだ」どんどん大きな声をあげて欲しい。

柳錫春氏：　ジェイソンモーガン氏の話から中国や北朝鮮のスパイたちが世界中で詐欺を働いていることが分かった。かつて挺対協は国連で嘘を世界に広めた。我々も日米韓の三国に止まらず、国連へ行って人権理事会などで真実を訴える必要がある。それでこそ中国や北朝鮮と連携している連中と戦うことが出来ると思う。皆様方が引き続き助けてくれることを信じてこれからも頑張りたい。

ラムザイヤー氏：

本日のシンポジウムで感じたことは、慰安婦問題は学問的には解決しているということだ。まだ徴用工問題な 1940　年代の史実を巡って論争があるかも

しれないが、バカなアメリカの学者たちは無視した方がよい。真実を訴え続ければかならず勝つ時がくる。そのためにこれからも頑張りたい。

李栄薫氏：　慰安婦問題は韓国が作った国家的「嘘」であり国際的「詐欺」である。だが現在でも韓国人の大半は「日本が朝鮮の多くの女性を強制連行して性奴隷にした」と信じている。その背景には1000年以上前から続いている日本蔑視の非近代的な文化と、歴史を嘘で固める中国、北朝鮮を含めた東アジア全体の習慣があり、一朝一夕に解決することは難しい。だが、慰安婦が合法的売春婦だったと言っても有罪にならなくなったことは確実な進展でもある。自分はこれから大きな市民団体を作り、現在の歴史教育を中断せよという訴訟を起こすつもりだ。覚悟を持ってやるので、日本の皆様も協力して欲しい。

西岡力氏：　30 年前韓国を訪れた時は、野党の国会議員も元南朝鮮労働党員だった人も朝鮮日報の編集局長も「慰安婦強制連行はなかった」と語ってくれた。だがそのことを公言することは出来ない社会的雰囲気があり、慰安婦問題の真実を公言する勢力は「０」だった。それが 2019 年の『反日種族主義』の出版により、「０」がようやく「１」になった。李宇衍氏の「反挺対協デモ」はそこから始まった。

さらに彼は私の徴用工と慰安婦に関する本を翻訳し、韓国内で発売された。そんな日が来るとは思ってもいなかった。「０」と「１」ははるかに違う。このような運動は重い球を持って坂を上るのと同じであり、手を離せばすぐに落ちる。一日一日押し上げてもどれだけ上がったかわからない。しかし10年経って下を見ると「随分上がったな」と感じることが出来る。真実は強い。しかし何もしなければ動かない。それをやったことでここに素晴らしい仲間が集まった。これから「１」を「２」にも「５」するよう頑張ろう。

閉会挨拶

最後に国際歴史論戦研究所上席研究員の藤岡信勝氏より次のように弊会の挨拶があった。

「慰安婦強制連行は1992年にそれが発生した直後に、西岡力先生の論文や、秦郁彦先生の現地調査報告などにより、学問的にも、論理的にも、実証的にも完全に否定されていた。自分もお二人の先生方の研究によって慰安婦問題の真実を知ることが出来た。その後も朝日新聞が「捏造報道」を認めるまでに長い年月がかかったが、今や元慰安婦が北朝鮮のスパイだということはほとんど常識となり、本日のようなシンポジウムの開催が可能となったのは感動的である。こまで来たのはお二人の先生方のおかげである。

本日のシンポジウムで驚いたのはアメリカの大学で教授が簡単に首を斬られること、そして韓国の小学校教科書で慰安婦の事が書かれていることだ。日本では中学校ではほぼな

くなったが高校の教科書では慰安婦問題を取り上げている。日本でも韓国でも教科書問題はまだ終わっていないことを実感した。

いずれにせよ本日、日米韓の良識派、真実派が結集してこのような大集会開催出来たことは大勝利であり、心からお祝いを申し上げる」

今回のシンポジウムの詳細は以上の通りであり、日米韓の研究者がスクラムを組んで「詐欺勢力」と対決する決意を表明する場となった。これから日米韓の「真実勢力」が再びそれぞれの国で、さらに国際舞台で慰安婦問題を巡る「詐欺」を打破するための戦いに臨む。そして来年ソウルで開催する「第四回シンポジウム」に再度結集し、その戦果を発表する予定である。

以上